

Cypripedium calceolus (カラフトアツモリソウ)

田 中 桃 三

2019年7月5日、シベリアのバイカル湖南部のタンコイからイルクーツクへ帰る途中の、やや明るい落葉広葉樹林の傾斜地で撮影した。

Cypripedium calceolus(カラフトアツモリソウ)は中型の地生ランで、高さは30～40センチほど。側弁は細くややよじれている、唇弁は丸くクリーム色で美しい。この種類はヨーロッパ、ロシア、中国、モンゴル、カナダ。日本にも自生するが、乱獲により絶滅寸前である。アツモリソウの名は唇弁が袋状であるところから源平時代の武者が背負う母衣(ほろ)を連想し、平家物語の平敦盛からこの和名がつけられた。

なお同所に *C. macranthos*(ホテイアツモリソウ)を見ることができた。ほとんどの株は花が終わっていたが、幸いにもきれいな一株を見つけ撮影することができた。



Cypripedium macranthos(ホテイアツモリソウ)